

[曲名] Souvenir de Florence

フローレンスの思い出

[曲種] pensiero melodico

旋律的情緒

[作曲者] Giuseppe Bellenghi

ジュセッペ・ベルレンギ

作者Bellenghi Giuseppelは1847年イタリアのボローニアに近いファエンツァに生まれ、1902年11月17日フィレンツェ（フローレンス）に逝いたイタリアの作曲家マンドリニスト、ヴィオロンチェリスト。

多くの音楽家がそうであったように彼の境遇も亦貧困極りないものであったが

然し音楽上の天賦の才能は彼にとって大なる財産であり而も幼児既に光彩を放ったと云われる。

最初の音楽学修はピアノに対して行われたが、

間もなくVioloncelloに心を惹かれ著名な教授Teodulo及びJefre Sbolciの許に可成り長時間この楽器の研究に当たった。

そしてフィレンツェに移ってからチェロの大家として名声を獲得、

フィレンツェやボローニアで開かれた数多の演奏会で独奏者として屢々公演した。

そして暫く劇場の第一ヴィオロンチェリストとして雇用された。

又この楽器の教授を始め、多くの門弟が集ったがその中に最も優れたチェリストとして知られたElvira Paoliがある。

この頃から彼はマンドリンに没頭するようになり、それ以後この楽器の福祉と平易化のために彼の芸術的生涯を捧げることとなった。

マンドリンは当時漸く上流社会の愛好楽器として盛に用いられ、此の楽器を熱愛した彼はマンドリンとマンドリン音楽の世界的風靡を予言した。

ベルレンギのマンドリンに対する真摯な研究は音楽的才能と相俟って遂に彼を優れたマンドリンヴィルトゥオーゾたらしめた。

1870年頃からマンドリン教授を始め彼の1日は唯マンドリンのこのみで終始した。

皇族ら門弟は夥しい数に上り皆裕福の人々の集りであった。

1880年から1900年にかけてフィレンツェやボローニアで彼は門弟、或いは他の音楽家たちの後援の許にマンドリニストとして屢々公演した。

之等の演奏会には有名なマンドリニストのRiccardo Rovinazzi、Silvestri、Caroline Grimardi等が参加した。

マンドリンの為の適当な音楽のないことは娯楽の目的を主とする抜萃曲を書く動機をベルレンギに与え、之等がミラノのリコルディから出版された。

彼は音楽の才能と同様このことにも敏感で之等の出版物の莫大な発行部数を見て

1882年自ら出版を始め自作と共に他のマンドリニストの作曲をも出版した。

斯くして著名な楽譜出版社Forlivesiの基礎を建設した。

イタリアに於けるマンドリン音楽の最盛時、

非常に沢山の出版社が各地に勃興したが多くの中絶した中にこのForlivesiは彼の子孫によって今日継承されている。

彼の逝いた当時であって諸作曲家の手になった約7000以上の作曲が出版されていたと云う。

Forlivesi社の名は彼の妻の結婚前の姓をとったもの。

ベルレンギの作曲は非常に多く、軽快な作品にはG.P. Piraniと云う筆名の許に出版された。

三巻に分けられたマンドリン教則本は著名で仏、伊、英、独の四ヶ国語で出版され、

1892年ヴァイオリンの大家、Camillo Siviro会長の許に開催された音楽博覧会とジェノヴァのコンクールで最高賞を授与された。

芸術の都フローレンス。

石畳の狭い通り巷の角々には14.5世紀頃の古い建物が聳えていてルネッサンスの昔が今なお生きているかのように数限りない物語を秘めている。

著名な詩人、彫刻家、画家、音楽家を輩出した都、建物に、広場に、通りに、皆夫々に古い歴史があり、一介の旅人と雖も感慨なきを得ないだろう。

まして作者にとっては生涯を送った都、思い出はつきないものがあるだろう。

イタリアのマンドリン曲にはPensiero melodico（旋律的情緒）と称するものが非常に多いが本曲もその一つ。

作者の本領を此処に集約した感があり、

12/8拍子イ短調の旋律及びイ長調に於けるマンドリンとマンドラの応答は我々を当時のマンドリンの都フィレンツェに運ばせるに十分なものがある。

作者がフィレンツェに在って活躍した時代は又マンドリンが最も栄えた時代で  
夕べになるとこの街の到る所にマンドリンを持った者が集まり、奏でたと云う。  
老いも若きも富める者も貧しき者も。

斯くて先天的に芸術的感受性豊かなフィレンツェの人の中からマンドリン音楽の心酔者たちが次々と生  
まれて之等が先駆者となったのである。

Bellenghi, Graziani - walter, Munier Marucelli !!!

1969年10月31日発行

イタリアのマンドリンアンサンブル佳曲百曲集第一集より